

日本語と日本文学

第 16 号

観念としての「理想（想）」……………坂井 健……(1)
——鷗外「審美論」における訳語を中心に——

谷崎潤一郎「女人神聖」論……………西 莊保……(13)
——「女人」をめぐる——

自他対応の意味的類型……………三井 正孝……(21)

「白いぼうし」試論——あいまいさの構造—— ……山本 茂喜…(左1)

正義原則と類似からの議論 ……………香西 秀信…(左9)

日本語における長音節の形成とその歴史的
意味——とくに和語の促音、撥音について—— ……高山 知明…(左19)

程度副詞の体言修飾について ……………張 麗 群…(左28)

情報の縄張から見た対話の構造 ……………中園 篤典…(左39)
——聞き手の相づちを中心に——

平成 4 年 2 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

- 一、投稿論文は三十枚程度。
 - 一、原稿の切は毎年度、二月末日および八月末日。
- 一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―
〒筑波大学 文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであるます。

これに従い、編集委員会では投稿規定を一部改め、二月末日の二度締切を設けることにしました。論文の対象分野および枚数三十枚程度は従来通りとします。

なお、投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

学会の顔ともいべき本誌の一層の充実は、強く願われるところです。学内外を問わず、広く会員の皆様の投稿を仰ぎ、さらなる発展を期したいと思います。積極的に御協力下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

『日本語と日本文学』第十六号をお届けいたします。今回は夏休みをはさんで原稿の集まりがよく、検討の結果ふだんの号より少し多めの編集としました。とくに、院生諸君の寄稿が多かったことは結構でした。このいきおいを次号以後も保ってほしいものです。 (高田 誠)

平成四年二月十五日印刷
平成四年二月二十日発行

第16号

305 茨城県つくば市天王台

〒筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 森野 宗明